

## 仏語学仏文学専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

仏語学仏文学専攻においては、フランス語が本国以外の地域でも話されている国際的な言語であることを踏まえ、その背景にある文化・文学・思想の普遍的な性格を認知し、自由・平等・友愛の精神のもと人権や民主の思想を世界中に広めるフランス精神を重んじ、カリキュラムに基づき、きめ細かな個人指導を実施する。博士課程前期では、仏語・仏文学の修得による普遍的な人間形成を目指した教育を施し、社会諸方面の要請に応える専門的人材を育成することを目的とする。博士課程後期では、それぞれの専門領域においてさらに深化した独創的な研究を実現できる、国際社会に有用な高度な専門職業人・研究者の育成を目的とする。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

仏語学仏文学専攻においては

<博士課程前期>

1. 学士に要求されるフランス語の基礎学力を習得した上で、さらなるフランス語の読解力と運用力を身に着ける意欲を持つ人
2. フランスとフランコフォニー（フランス語使用圏）の文化と社会に関する理解をさらに深化させたいと願う人
3. 仏語学、仏文学のより専門性の高い研究方法を学ぶ意欲のある人
4. フランス語の高度の能力と専門的な知識を活かして、国際社会で活躍を望む人

<博士課程後期>

1. 博士課程前期で培った総合的フランス語能力をさらに深化させ、専門的研究を行い、学位論文の執筆を目指す人

の入学を求めています。一般入学試験や社会人入学試験等により、仏語学仏文学専攻での修学希望者を受け入れます。

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

仏語学仏文学専攻の博士課程前期 1 年次では、仏語学と仏文学を対象とした科目である「特殊講義」（ネイティブによるフランス語の授業を含む）及び「特別講義」を横軸として、多角的に仏語学、仏文学のテーマを学びます。縦軸にあたる「演習」では、院生自らの研究課題を積極的に発見し、研究方法を具体的に身に着けていきます。2 年次で





は、引き続き「演習」の授業を通して論文制作の指導を受け、自らの研究を深め、その成果を「修士論文」として公表します。

博士課程後期では、3年間にわたる「特別研究」において、指導教員の指導を受けながらさらに高度な専門的知見を得るべく、自らの研究課題を探求します。研究成果は『大学院論集』等の学術雑誌で公表します。随時、高い専門性を持つ「特論」や必要に応じて招聘される非常勤講師による講義などを通じて、「博士論文」の作成を進め、研究者としての自立を目指します。

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

仏語学仏文学専攻の博士課程前期では、高度なフランス語読解力と運用力を身につけながら、仏語学および仏文学に関する自らの研究課題を見出し、指導教員による適切な指導のもと修士論文を提出することをめざす。主査と副査の厳正な審査のうえその課題を十分に果たした修士論文を提出した者に修士号を授与します。

博士課程後期では、勉学によって得られた仏語学及び仏文学についての知見にもとづき、さらに高度な専門知識を要求される研究課題に取り込み、指導教員の指導のもと独創的な博士論文を提出すことを目指す。専門分野において新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができる、フランス語を用いて独自の見解を論文で明示する能力を備え、かつ、後進を指導育成する資質や指導力を身につけている、と認められる者に博士号を授与します。

